

まえがき

本報告書は、緑化生態研究室が平成 21 年度に行った調査・研究の概要ならびに、当研究室のスタッフが平成 21 年度に学会や雑誌などで発表した論文を収録したものです。

平成 21 年度に実施した調査・研究課題は、大きく以下の 5 テーマに分類されます。

- ① 地球温暖化対策の技術支援に関する研究
- ② 環境影響評価の技術支援に関する研究
- ③ 外来生物等への適切な対応に関する研究
- ④ 樹木管理の高度化に関する研究
- ⑤ 景観の保全と再生に向けた技術支援に関する研究

「① 地球温暖化対策の技術支援に関する研究」では、剪定が街路樹の CO₂ 固定に与える影響把握調査、都市緑化樹木の CO₂ ストック変化量把握に関する研究を実施しました。

「② 環境影響評価の技術支援に関する研究」では、DNA を用いた生息地分断影響予測モデルに関する研究、動植物・生態系分野の環境保全措置と事後調査手法に関する調査を実施しました。

「③ 外来生物等への適切な対応に関する研究」では、地域生態系保全のための緑化技術の開発、特定外来生物の代替植生に関する調査、地域生態系の保全に配慮した緑化手法の開発を実施しました。

「④ 樹木管理の高度化に関する研究」では、公園樹木管理の高度化に関する研究を実施しました。

「⑤ 景観の保全と再生に向けた技術支援に関する研究」では、歴史的風致形成に資する建造物等の保全・活用方策に関する研究、河川総合開発事業における景観評価構造分析調査、道路事業における景観検討の費用に関する検討調査を実施しました。

平成 22 年は 10 月に名古屋で生物多様性条約第 10 回締約国会議が開催されるなど、生物多様性に関する関心が高まり、道路、河川、公園・緑地等の社会資本の整備・管理に際しても生物多様性保全への一層の配慮が求められております。また国土交通省では、国土交通行政の 5 つの目標の一つに、「美しく良好な環境の保全と創造」を掲げ、地球環境問題の解決に向けた貢献、良好な環境の保全・創出、国民が誇りを持てる美しい日本の形成のため様々な取り組みを進めております。このような背景の基、緑化生態研究室では「環境と調和した社会の実現」を主要な研究テーマとし、地球温暖化への対応、生物多様性の保全、景観・歴史まちづくりやみどり豊かな都市づくりの実現に向け、技術開発や政策研究を進めているところであります。私たちは、研究成果に対する皆様からの評価やご意見を踏まえつつ、上に示したような研究を通して、より良い政策提言の発信に向けて努力していきたいと考えています。

末尾ながらこれまでの関係の皆様のご指導、ご協力に感謝するとともに、緑化生態研究室に対する変わらぬご支援をお願いする次第です。

平成 23 年 1 月

国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部 緑化生態研究室長
松江 正彦